

# 明日へ向かって駆ける

## 農業法人の経営者は語る

「無農薬・有機栽培の安全・安心な茶作りを続けて産地を守り、皆さんにも知ってもらいたい」と話すのは、南山城村童仙房地区の「(有)童仙房茶舗」代表取締役社長  
の布施田雅浩さん(47)。

同地区は村の北部に位置し、標高500以上の高原地帯で、急な林道を唯一の交通路とした山上にある。明治初期に、京都府が布施田さんの先祖ら入植者を募って茶畑や田を開墾した。標高が高く寒暖の差があり、良質なお茶ができる高級茶の産地だ。

無農薬・有機栽培を始めたのは、先代の父が「体調を崩すきっかけとなった農薬を使った茶を届けても良いのか」という思いがあり、そこから農薬を使わずにやろうと

したのが始まり。

1980年に無農薬・有機栽培を始めた当時から茶園を手伝っていた布施田さんは、夏の草刈や茶工場でも蒸す工程や茶葉を機械に入れる工程を手伝っていた。大学を卒業後、4年間サラリーマンをしていたが「無農薬で希少性の高い茶を何とか広められないか」と思い、就農した。就農して3年目の2000年に父親が亡くなり、童仙房茶舗を継承、販路も自分の

足で営業し、茶の小袋での販売を増やすことで経営を安定させた。しかし、個人経営のままでは小売店・専門店などとの取引ができないと、2004年に信頼を確保し従業員を雇用するために法人化。JAからも有機質肥料などを購入し、こだわりの有機栽培を続けている。

新たな取り組みとして「海外でオーガニックに注目が集まり、欧州へも少量だが輸出している。



▲ 無農薬・有機栽培にこだわる布施田さん

ホームページも多言語対応し、注文を受けられるよう準備を進めている」と話す。

布施田さんは「高齢化が進む茶農家から茶園を引き受け、現在5畝まで茶園が増えた。茶農家が減っているが、今後も産地を維持していきたい」と話す。

「うちの茶は濃い味ではなく、茶本来の味を出す作り方をしている。あっさりしているが、後味が爽やかで、甘みが残るように作っている。4年前からは、紅茶とウーロン茶も作り、小袋にして販売している。何も足さなくても甘味のあるものに仕上がった。茶に興味を持ってもらうきっかけにしてほしい」と茶への熱い思いを話す。

■法人所在地 南山城村童仙房小玉129。(電)0743-0930046。

■法人概要 2004年1月設立。役員1人、正社員3人、パートタイマー2人。経営面積 茶畑5畝。農業機械 2人用茶刈り機4台、茶工場120kg×1ライオン、茶用冷蔵庫・ほうじ機・切断機・袋詰め機・期限印字用インクジェットプリンター各1台。

# 無農薬・有機で産地守る

(有)童仙房茶舗 代表取締役

## 布施田雅浩さん